



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2020年6月1日 第107号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発 行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

令和2年度 セミナー中止について

千葉県 TEACCH プログラム研究会は、今年度で19年目を迎えました。この間、千葉県の福祉行政、教育行政、そして多くの関係機関の皆さまのご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。今年度も「多くの方が自閉症のことを正しく理解して適切な支援を行ってほしい、自閉症の人がその人らしく幸せに暮らせるようになってほしい」という強い思いで、全国的に著名な講師をお招きしてセミナーを計画し、4月に、総会の資料とともに年間計画を皆さまに送付させていただきました。セミナーを計画するにあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大を避けようと、計画を見直すこともいたしました。しかし、世界的な新型コロナウイルスの感染は、まだまだ終息の見通しがありません。千葉県では、感染者数が減ってきている状況ではありますが、不安な状況は続いています。このような状況ですので、皆さまの健康と安全を第一に考え、今年度は年間のセミナーをすべて中止させていただくことにいたしました。

千葉県では、昨年の秋には台風により大きな被害を受けました。昨年度の台風、そして新型コロナウイルスの感染拡大と続き、突然の変更が苦手な自閉症スペクトラムの方には、不安が強まる厳しい毎日なのではないかと思っております。しかし、昨年度最後のセミナーでの報告にもありましたように、日頃から TEACCH プログラムのセミナーでお伝えしている、「意味と見通しを分かるように伝える」「一人一人にあわせて対応法を考えて、分かるようにできるようにしていく」などを実践していけば、乗り越えることもできると思います。たいへんな状況ではありますが、こんな時こそ、TEACCH プログラムで学んだことの基本を振り返り、一人一人に適切な支援をしていただきたいと思います。

今年度のセミナーの中止にあたり、会員の皆さまからの会費はいただかないことにいたしました。すでに振り込んでいただいた方は、来年度分とさせていただきます。広報の印刷代や送料等は、昨年度の繰越金を使用いたします。今年度の予算（案）を見直すこととなりますが、来年度の総会の収支決算書で報告させていただきたいと思っております。いろいろ変更がありご迷惑をおかけしますが、今年度は特例ということで、ご理解いただきたくお願いいたします。

来年度、落ち着いた状況で、また多くの皆さまと一緒に学んでいきたいと思っております。一日も早い終息を祈って、私たちも一人一人が今できることをやっていきましょう。最後になりましたが、医療従事者の皆さま、施設等で支援してくださっている皆さま、生活を支えてくださっている多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

千葉県 TEACCH プログラム研究会
代表 西村 則子



第 6 回連続セミナー報告

2019. 2. 15開催



「アセスメントを活用した就労支援」

吉村 奈津江氏（千葉県立特別支援学校流山高等学園 教諭）

TTAP フォーマルアセスメントと流山版地域での行動チェックリスト（CBC）や地域でのスキルチェックシート（CSC）を活用し、Kさんの特性や実習先での課題を家庭、学校、実習先で共有し、現場実習に臨んだ実践例。あらかじめ実習先で起こりうる不安や問題に「対処マニュアル困ったことQ&A」を本人と相談しながら作成し、成功したことなど本人に感想を聞きながら発表した。具体的な取組として、報・連・相のタイミングをつかむための練習やコミュニケーションのヒントカードや自分の気持ちや考えを整理するためのコミック会話などを紹介。また、実習期間を他の生徒とずらし、余裕をもって準備や振り返りを行えるよう配慮した。本人が、安心して目標達成できる環境づくりが進路支援では重要である。



「災害時対策の課題～令和元年台風15号、大雨被害から学んだこと」

村田 悠氏（社会福祉法人春濤会八幡学園 児童指導員）

今後起こりうる災害時に必要なこととして具体的に発表。長引く断水や停電に対して、通常の生活とは異なる時間の過ごし方（TVやスマホ、入浴不可など電気や水を使わない余暇の過ごし方）を考えておく。今回は、日中、園庭で遊具を使用して運動したり、空調が使えるドライブをしたりして気分の転換することができた。避難訓練の実施では、利用者が安全に避難できるルートの確認、最低限必要な荷物（薬やイヤーマフ）、職員の勤務体制の確保、職員のゆとりある態度が利用者の安心につながることに自覚など課題があげられた。災害時には、服薬管理、二次避難方法や場所の確認、利用者及び職員のメンタルケア、保護者との連絡手段、地域との連携が重要である。利用者の特性に合わせた視覚的支援が有効であるがとともにそれに併せて利用者及び職員の経験による積み重ねや変化に対応できるスキルの確保も大切である。

「台風後に知ったこと、学んだこと～石井家の場合～」

石井 佳代子氏（東総地区自閉症協会 保護者）

24歳の重度の知的障害を併せもつASDの娘さんの事例発表。災害後、娘さんのこだわりが復活したことや母である自分の心が折れそうになったことへの対処を具体的に紹介。カレンダーを活用した視覚スケジュールに加え、寺子屋（法人内の開放施設）のリュックが手掛かりとなり落ち着いて寺子屋で過ごせたこと（本人の理解に応じた支援）や、CD・DVDなどの安心グッズが効果的だったことなど説明。母は、災害ボランティアを通して地域をより知れたこと、災害時要支援の登録申請をしたこと、医療機器の電源確保のための方法を知れたことなど、地域を知ることがつながりを生み、チームとして障害を持つ方を支援できることを実感。それに加え本人を観察し、思いを想像し、時に様々な機関と連携しながら生活することが改めて重要であると気づいた。

「2019. 台風被害を受けて・災害対策と報告～東日本大震災の経験が活かされた重度の知的障害を伴う自閉症の息子の場合～」

小野 幸子氏（君津地区自閉症協会 保護者）

24歳の重度知的障害を伴うASDの息子さんの事例を発表。3・11の地震の際は、店の商品がなくてパニックを起こすなどしていたが、今回は自宅や近所の風景が一転する中、停電時には、ランタンを持ち、自分なりに楽しそうに過ごしていた。10日間の通所施設休みに伴い、持ち前の体力を生かして栗林の片付けなど黙々とこなす頼もしさが見られた。自衛隊の復旧支援車両が数か月滞在する状況に、壊れた環境を直してもらえると見通しを持ち、「ありがとう」と感謝する場面もたくさん経験できた。15号の経験から19号に備えてガラス飛散防止や雨漏り対策など率先して手伝っていた。豪雨の時は、以前TVで自衛隊のヘリで救助される中継を見て、水害が起きた時の避難の流れを作ってルールを確認しながら練習してきたことが活かされ、安心して施設へ一人で避難できた。今回の経験が、本人の理解や自信に積み重ねられた。安心して、楽しみをもって、豊かに暮らせるよう今後も備えていくことが大切である。

「災害への対策と報告～T家の場合～」

瀧本 裕子氏（印旛地区自閉症協会 保護者）

25歳の重度知的障害を伴うASD、てんかん、腎不全の息子さんと18歳の重度知的障害を伴うASD、てんかんの息子さんの事例を発表。台風15号で停電となった状況での兄弟の生活は、3・11の経験もありランタンや懐中電灯で落ち着いて過ごしていた。普段の余暇として使っていたスマホ、タブレット、ゲームなど電気を使用する機器の使用ができないためイライラが募るものの「電気終わりです」の一言で理解し、パズルや書き物など別な余暇をして過ごすことができた。エアコンが使えず、暑かったため、てんかんの息子さんの体温調節が心配だった。今回の災害は、これまでの経験の積み重ねやT研で学んだ「生活の中でいかせた学び」「家庭の中で継続できたこと」「あせらずあきらめず」を実施したことで乗り越えられたと感じている。



新しいスタッフ紹介



三国 寛伸さん

今年度から運営委員となりました、八日市場特別支援学校の三国と申します。障害のある方との関わりは短く、知らないことばかりですが皆さんと一緒に勉強していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



小野 幸子さん

君津地区自閉症協会の小野幸子と申します。息子が幼児の時にTEACCHの勉強会が開催され、当時は保育を行っており、この保育の実践を通して我が子にあった取り組み方を学ぶことができました。これまでの成長過程で様々な問題にも、ご相談しながら育てることができましたこと、心から感謝しています。微力ながらどうぞよろしくお願いいたします。



石井 佳代子さん

皆様、初めましての方、そうでない方も、今年度から運営委員となりました東総地区自閉症協会の石井佳代子と申します。よろしくお願いいたします。昨年度末から、新型コロナウイルス感染が拡大し、自粛が続く中、私自身も皆様も先の見えない不安な生活をしているのではないのでしょうか。セミナーも開催中止となってしまいましたが、気持ちは自粛することなく今できることを前向きに考えながら過ごし、アフターコロナに皆さまとさらに学びを深めます！



ティータイム

千葉TEACCHプログラム研究会 ディレクター 安倍陽子



令和2年風薫る5月、美しい新緑と薔薇の花々と水色の空が調和する一年で最も過ごしやすい季節になりました。皆様、2020年の新しい年をどのように迎えられましたか？

例年通り、千葉のT研を開催するにあたって書き始めるはず…でした。ところが、千葉のTEACCH研究会が発足してちょうど19年目のこの年に、私たちは今までに経験したことのないような苦しい日々を迎えています。残念なことに、皆さまには、今年の開催を中止し、今年度1年をお休みにすることを報告させていただきたいと思います。

申し遅れましたが、私は、職場は横浜市なのですが、千葉県に住んでいることもあり、T研立ち上げ前の準備の年から、関わらせていただいています。このティータイムは、講演会や個人的なことを書かせていただいています。どうぞ、よろしくお願い致します。

現在、私たちは、新型コロナウイルス（COVID-19）の正体はよくわからず、ワクチンや新薬も開発途中にあり、先行きもよく見えないままの状態にあります。専門家によってはワクチンの可能性は1~2年かかるとの見方もあり、決して楽観視は出来ないようです。

それを考えると長期戦になっていく可能性があり、このウイルスとどのように共生していくのか、私たちの生活様式を変えることが求められています。社会的な距離、テレワーク、時差出勤、リモート飲み会など、すでに新しい生活様式が入ってきていますね。

ストレスや不安を感じる人が多いこの時期に、ASDの人たちに助けとなるようにT研のホームページに、「不確実な時に自閉症の人たちを支援するということ」の資料をアップさせていただきました。これは、ノースカロライナ大学教育学部の自閉症チームのカラ・ヒューム先生がチームのメンバーと書いているもので、川崎医療福祉大学の諏訪先生のチームが翻訳をされています。（カラ・ヒューム先生は、この2月に京都で行われた全国TEACCH研究会で講演をされました。）7つのサポートの戦略には、理解についてのサポート、表現の機会の提供、対処と落ち着くためのスキルの優先などがあるのですが、いずれも、支援は、普段から行っていることが基本になるでしょう。スケジュールや視覚支援、ルーティンをうまく使ったやり方、子どもから発信できるようにその伝え方を教えていく、余暇スキルの開発など、今まで私たちの研究会で学んできたことが土台になります。

特に家庭生活では、どのように過ごすのかスケジュールの設定、一人で行える余暇などのレパートリー、リラックスの仕方も必要となるでしょう。また、家の中での役割、お手伝いを持っている子どもは、家の中に明確にやることがあるでしょう。現在は、児童発達支援や放デイを利用している子どもも多く、家族で過ごす時間が少なくなっており心配されます。家の中での役割の大切さについては、故佐々木先生もよくおっしゃっていましたが、将来の暮らしや適応状態とも関係してきます。

日本は自然災害大国、私たちは、ウイルスだけではなく、地震や大雨、台風などにも備えなくてはなりません。特にこれからの季節が重要です。

私たちの健康や暮らしを守って下さっている医療従事者、介護・保育・支援者、宅配、郵便、運輸、ゴミ収集、食料品などに関わるエッセンシャルワーカーに心から感謝ですね。

皆さま、健康に留意され、新しい情報を得て、日々の暮らしを大切に！ 5月16日

令和2年度TEACCHプログラム研究会セミナー中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のために全てのセミナーを中止とさせていただきます。年会費につきましては、令和2年度はいただかないことになりました。既に振り込んでいただいた方につきましては来年度の会費とさせていただきます。今後につきましては、HPにて掲載させていただきます。ご了承ください。



編集後記

昨今、T研のスタッフとして、また、一人の支援者として何ができるのか考えさせられます。これまで接してきた生徒に状況を聞いたところ、自分なりに創作活動に没頭するなど「ステイホーム」を楽しんでいる子がいました。「頼もしさ」を感じると共に余暇や感情のコントロールなどセルフマネジメントの大切さを実感しました。一日も早く終息するとともに皆さまのご健康をお祈りいたします。

吉村 奈津江